

「術後再建腸管例における EUS-FNA に関する検討」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年12月6日～2025年3月31日

〔研究課題〕

術後再建腸管例における EUS-FNA に関する検討

〔研究目的〕

本研究の目的は、術後再建腸管例における膵病変の EUS-FNA の成績や安全性について、後方視的に検討することです。それにより、膵病変の診断ストラテジーの確立に寄与できると考えています。

〔研究意義〕

膵腫瘍性病変の鑑別として膵癌、膵神経内分泌腫瘍、炎症性膵疾患などが挙げられ、画像検査のみでは鑑別診断が困難なことがあり病理診断による確定診断が行われます。病理診断のための細胞や組織採取法として、超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) が一般的に行われ高い感度と特異度を有しています。しかし、術後再建腸管例では超音波内視鏡での病変描出が困難なことがあり、特に Billroth-II 法や Roux-en Y 法再建例では膵頭部病変が描出できず穿刺不能な症例が存在しますが、術後再建腸管例における EUS-FNA の臨床的評価についてはほとんど検討されていません。そこで今回、術後再建腸管例における膵病変の EUS-FNA の成績や安全性について、後方視的に検討することとしました。

〔対象・研究方法〕

本研究は、2018年6月1日から2022年6月30日の間に、消化管を切除し再建した後に EUS-FNA を行った症例を対象とします。対象となる方のカルテ情報からの下記の情報を調査します。

A. 患者基本情報 (年齢、性別、基礎疾患、内服薬、診断契機、症状、消化管再建術式、消化管再建術を行った原因疾患) B. EUS-FNA 前の所見 (血液検査所見、CT 所見、MRI 所見、EUS 所見、ERCP 所見)、C. EUS-FNA の所見 (EUS-FNA 施行日、病変径、穿刺腸管、FNA 針の種類、FNA 針の G 数、手技的成功の有無・手技的不成功の理由) D. EUS-FNA 後の所見 (細胞診の結果、組織診の結果、FNA 後の診断、偶発症) など

これらの個人情報が出ることのないように患者個人を特定できないようにコード化した後に富山大学附属病院第三内科へ送信し、大規模データ集計に登録します。

〔研究機関名〕

富山大学附属病院第三内科 (教授: 安田一郎)、帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。データの管理、保管は厳重に行い、研究終了後にデータおよび資料は倫理委員会事務局に提出され帝京大学臨床研究センターにて10年間保管後にすべて廃棄します。

〔その他〕

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:土井 晋平(准教授)
所属:帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科
住所:〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1
TEL:044-844-3333 (代表)